

D-8 就労形態の相異による母親の教育期待の比較研究 (第5報)
福山市立女短 津 川 淳

目的 きわめて激しく変動する社会にあって、生活の基本単位としての家族で、母親の就労がどの様に子供への教育期待に変化を与えているかを明らかにしていく。

方法 広島県下、福山市を中心とする地域で、幼稚園、保育所に通う5・6才児を持つ母親に対して、幼稚園、保育所の協力を得て、質問紙を配布し、これを無記名記入の上、密封し、回収した。分析は①家族形態として核家族かそれ以外か ②職業を自営、ホワイトカラー、ブルーカラー ③母親の就労状況を共働き、パート、無職に分け、これらを相互にクロス集計し、18分類を作った。この中から数の少ないものを除き12分類で分析した。これらから χ^2 検定を行ない、有意差のあるものを選び出し、それぞれのタイプを限定して、各々で特徴のあるものだけを考察していく。

結果 学歴は夫婦共にホワイトカラーの拡大家族の無職、同核家族の無職が最も高く、収入は全体的に自営に高く、次いでホワイトカラーの核家族の無職である。持家状況は自営に持家が多数、ブルーカラー、ホワイトカラーには借家が多数。意識分析ではホワイトカラー、核家族、無職に内的が顕著であり、外的傾向は母親が就労している場合ほど多い。それだけに態の不一致度は多くなり、態をするのが母以外、未定が多くなる。